

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	西関東連絡道路 <small>みなの ちちぶ</small> 一般国道140号皆野～秩父バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県	
起終点	自：埼玉県秩父郡皆野町大字皆野 至：埼玉県秩父市蒔田	延長	4.9km			
事業概要	一般国道140号皆野～秩父バイパスは、西秩父地域へのアクセス強化と秩父市街地の交通渋滞の緩和を目的とした4車線（暫定2車線）バイパス事業であり、関越自動車道・花園ICと山梨県甲府市の新山梨環状道路を結ぶ地域高規格道路「西関東連絡道路」の一部を構成するものである。					
H14年度事業化		H15年度用地着手		H16年度工事着手		
全体事業費	146億円	事業進捗率	84%	供用済延長	0.7km	
計画交通量	7,200台/日					
費用対効果分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.4 <small>(残事業)</small> 6.0	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 42/183億円 事業費：19/160億円 維持管理費：23/23億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 251/251億円 走行時間短縮便益：237/237億円 走行経費減少便益：13/13億円 交通事故減少便益：0.73/0.73億円	基準年	平成23年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量：B/C=4.5～6.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=5.7～6.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.6～6.7（事業期間 ±1年）					
事業の効果等	地域高規格道路として、広域的な地域間交流の根幹を担う道路であり、現道における慢性的渋滞の緩和や災害時の緊急輸送機能の向上、観光産業への寄与などが見込まれる。					
関係する地方公共団体等の意見	地元首長、議長等で構成される秩父地域基幹道路建設促進議員連盟から早期整備の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見	事業継続とした県の対応方針（案）を了承する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	国道140号皆野寄居バイパスの全線開通および観光目的の交通の増加のため、秩父市街地における交通渋滞が慢性化しており秩父地域への交通量が増加しており、本バイパスの必要性は高まっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業区間の起点側（北側）から整備を進め、平成22年度に荒川を渡河する新皆野橋を供用開始した。その他の区間については、用地が取得できた箇所から工事を推進している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	引き続き残りの用地買収およびトンネルや橋梁等の工事を推進する。平成23年度は、トンネル工事2箇所に着手し、平成24年度からは、県道吉田久長秩父線から国道299号までの区間についても工事に着手する予定であり、事業期間内に完了できる見込みである。					
施設の構造や工法の変更等	地域高規格道路の構造要件緩和（H15）に伴い、構造規格（幅員の縮小・設計速度の低減）やルート、縦断線形等を変更し、工事費及び用地補償費についてコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の事業の効果およびコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会の意見等を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。